太田市

子ども読書活動推進計画

２０１９年４月

太田市

目　次

第１章　計画の策定について

１　計画策定の目的

２　対象

３　計画の期間

４　計画の推進方針

第２章　計画推進のための取組

Ⅰ　家庭における子どもの読書活動の推進

１　こども館

Ⅱ　地域における子どもの読書活動の推進

１　図書館

２　児童館

Ⅲ　学校等における子どもの読書活動の推進

１　公立幼稚園・こども館

２　小学校・中学校・特別支援学校・高等学校

Ⅳ　関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

第１章　計画の策定について

１　計画策定の目的

現在、インターネットやスマートフォンの普及などにより、子どもたちを取り巻く読書環境は大きく変化し、情報や知識の習得方法、また、読書の在り方にも大きな影響が及んでいます。

こうした状況のもと、子どもの健やかな成長のために、身近な家庭、地域、学校等はもとより、社会全体で子どもの読書活動を推進していくことが、ますます重要となっています。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

また、子どもの頃の読書活動が多い子どもほど、大人になって未来志向や社会性などの意識・能力が高いという調査研究結果も報告されています。

国においては、平成３０年４月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」が策定されました。また、群馬県においても平成２７年３月に「群馬県子ども読書活動推進計画（第三次）」を策定し、子ども読書活動を推進しています。

このたび、太田市においても、関連するこれらの計画等をふまえながら、子ども読書活動の一層の推進を図ることを目的に、「太田市子ども読書推進計画」を策定しました。

２　対象

おおむね１８歳以下の子どもとしますが、子どもの読書推進に関わる保護者及び市民を対象とします。

３　計画の期間

計画期間は、２０１９年４月から２０２４年３月までの５年間とします。

４　計画の推進方針

太田市は、以下の取組をとおして、本計画の推進を図ります。

Ⅰ　家庭における子どもの読書活動の推進

Ⅱ　地域における子どもの読書活動の推進

Ⅲ　学校等における子どもの読書活動の推進

Ⅳ　関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

第２章　計画推進のための取組

Ⅰ　家庭における子どもの読書活動の推進

１　こども館

（１）夏休み読書キャンペーン事業

①　現状

夏休み期間中、「お気に入りの一冊に出会う夏」をテーマに実施しています。３歳以上の子どもが、自分で本を読んだり、大人に本を読んでもらって本の世界を広げてもらうことを目的としています。こども館の受付で自分に合った「本のしおり」をもらい、そのしおりに書いてある本を借りて読むと、読んだ印として、こども館でしおりにスタンプを押しています。

平成２９年度参加者	３７０　人
一人当たり読んだ本(平均)	２　冊
総読書数	７２７　冊

②　課題

子どもが本を読む機会が少なくなっている原因として、親が読書習慣を子どもに身に付けさせることの重要性を理解していないことがあげられます。

読書が生活の一部として継続的に行われるよう、子どもの読書活動に親が積極的に関わっていけるよう（「親自身が読書する姿を子どもに見せる」「子どもと一緒に図書館に出かける」「読み聞かせ会に参加する」等）、「こども館」ではさまざまな事業を開催しています。読書キャンペーンについてはコンセプトが今一つ分かりづらく、広く周知徹底されていないのが現状です。

③　今後の方向性

親が、子どものうちから読書習慣を身に付けることの重要性を理解するため、親子で参加できる本に関する催し物や、親子で気軽に「こども館」に来て読書をすることが出来る雰囲気づくりに努めます。「読書キャンペーン」もせっかく夏休み中に実施しているので、子供たちに参加したいと思わせるような方法を検討したり、参加者にわかり易くＰＲしていきたい。

（２）本の貸し出し事業

①　現状

こども館にある「菅田文庫」には児童向け図書が９，８００冊あります。子どもから大人まで図書の貸し出しを実施しています。

	平成２９年度貸し出し数	利 用 人 数
本	１７，３４０　冊	４，１９５　人
紙 芝 居	２６９　冊	１０１　人

②　課題

児童館やこども館を訪れる子供の数が減少していることや、館に遊びに来ても読書以外の遊びをするだけで本に興味を持っていない子ども(親)が多くなってきています。そのような本に興味がない子供たちに関心を持ってもらえるような図書を、限られたスペースや予算の中で購入していかなければならない。（貸出冊数も平成２８年１２月から一人３冊までだったのを５冊に増やし、貸出数は増加したが、利用者数の増加には至っていない）

③　今後の方向性

子どもの読書活動の推進に繋がるよう、子どもたちのさまざまな興味や関心に応えられる図書の購入を実施します。また、幼児を抱えたお母さん達は大勢来館して、イベントには参加するが、えほん室に足を運ばないのが現状。イベントを開催しているお部屋で、手に取って読んでもらえるよう、自由に絵本とふれあう機会を作り、ＰＲしていきたい。

担当課：【児童施設課】

Ⅱ　地域における子どもの読書活動の推進

１　図書館

（１）本と出会い、本に親しむ子どもを増やす取組

①　現状

図書館では多様化する利用者ニーズに応えるため、図書・視聴覚及び郷土資料の整備やレファレンスサービス強化に努めています。更に、自主的な学習や文化活動の支援、ワークショップの開催など子どもたちが本に親しむための様々な機会を提供しています。

【取り組み事例】

・公立図書館では、図書館だよりの発行、ブックスタートの実施、お話し会やクリスマス会、古本市等の開催および「読書通帳」の利用促進など本に親しむ活動を行っています。

・美術館・図書館では、多様性あふれる世界の文化や感性に出会えるワークショップを開催するなど、子どもたちが図書館を身近に感じてもらえる活動を行っています。

・親子に絵本の大切さや素晴らしさを伝える読み聞かせ会は、図書館をはじめ行政センターや児童館などで実施され、子どもの読書環境の向上を図っています。

②　課題

公立図書館では児童・生徒が読書に親しむ機会をどのように増やしていくか重要な役割が求められています。特に利用者のニーズは多様化の一途であり児童・生徒の活字離れも深刻な課題とされています。

図書館を日常的に利用していない子どもたちに対して、図書館を身近に感じてもらい、読書の楽しさや大切さを理解してもらえるような事業展開が求められています。

電子メディアの発達に伴い、本に頼らず容易に情報収集が可能となっていることも課題となっています。

③　今後の方向性

利用者は、一体、何を図書館に求めているのか。図書館の果たすべき役割とは何なのか。 今までとは違った視点から図書館業務を見つめ直すと共に利用者ニーズの積極的な収集、利用者から求められる理想の図書館像へ向けて取り組む必要性があります。

【求められる図書館像】
・ニーズに合った資料収集及び魅力的な蔵書選定に努めます。
・積極的なHP・SNSの活用による積極的な情報発信に努めます。
・親しまれる図書館を目指し子どもの読書活動応援企画に取り組みます。
・地域財産の積極的な活用を図り住民・団体等との連携強化に努めます。
・各年代の子どもたちが興味と関心を喚起する図書の充実に取り組みます。
・読書の苦手な子どもが本を読むきっかけになるイベントの開催に努めます。

２　児童館

（１）読み聞かせ事業

①　現状

市内１５か所ある児童館のうち１２か所の児童館で読み聞かせを実施しています。

平成２９年度開催回数	参加人数
２３６　回	３，２１５　人

②　課題

児童館を訪れる子供の数が減少していることや、館に遊びに来ても読書以外の遊びをするだけで本に興味を持っていない子ども(親)が多くなってきていることが現状です。

③　今後の方向性

少子化、核家族化、共働き家庭の一般化など家庭や地域の子育て機能が低下し、児童を取り巻く環境が大きく変化する中で、本を通して子育て親子の交流や子育て情報の提供などが行えるような事業を展開していきます。

担当課：【学習文化課】
【美術館・図書館】
【児童施設課】

Ⅲ　学校等における子どもの読書活動の推進

１　　公立幼稚園・こども館

（１）　読書活動の推進

①　現状

各幼稚園では、職員による読み聞かせを毎日実施しているほか、保護者のボランティアによる読み聞かせを実施しています。また、園児たちを近くの図書館へ連れていき、好きな本を自由に選んで読む機会も設けています。職員がまとめて借りてきた本は、保育時間中に自分達で読んだり、週末には家に持ち帰ったりして、親と一緒に本を読むよう勧めています。また、園児一人１冊、生活絵本やお話、学習・科学絵本など各年齢ごとに内容を選定し、購入しています。保育の中で活用し繰り返し読んだり、家庭に持ち帰ったりして、毎月全園児が月刊誌を通してじっくりと絵本に取り組んでいます。

②　課題

本を購入するには費用やスペース的な問題もあるため、園で購入することが年々困難になってきました。また、子どもたちが家庭に本を持ち帰っても保護者が読書の大切さに気が付いていない場合もあるため、子どもたちに読書習慣を身に付けさせるには、まずは親に対して読書への理解や関心を高める取り組みを行っていかなければなりません。

③　今後の方向性

ボランティアとの連携を強化するとともに、子どもたちが図書に触れるスペースや時間の確保を図り、絵本や物語に親しむ環境整備を目指します。

（２）読み聞かせ事業

①　現状

こども館では３歳以上の子どもを対象に「おはなしのへや(読み聞かせ)」を定期的に実施しています。（３歳～小学校１年生までと、小学校２年生以上に分けています）また乳幼児とその保護者を対象に「わくわく紙芝居」も開催しています。

	平成２９年度開催回数	参　加　人　数
こども館(読み聞かせ)	７３　回	４９８　人
こども館(紙芝居)	２６　回	３５２　人

①　課題

こども館を訪れる子供の数が減少していることや、館に遊びに来ても読書以外の遊びをするだけで本に興味を持っていない子ども(親)が多くなってきていることが現状です。

②　今後の方向性

少子化、核家族化、共働き家庭の一般化など家庭や地域の子育て機能が低下し、児童を取り巻く環境が大きく変化する中で、本を通して子育て親子の交流や子育て情報の提供などが行えるようボランティアと連携し事業を展開していきます。紙芝居を好きな子どもも多く、幼児だけでなく、小学生も楽しめる紙芝居がたくさんあるので有効活用したい。（「わくわく紙芝居」は平成２９年２月、紙芝居の貸出しは平成２９年４月から新しく始めました。）

２　小学校・中学校・特別支援学校・高等学校

（１）　学校図書館の充実

①　現状

各学校では配当された予算で必要な図書を購入しています。図書の選定に当たっては、図書主任を中心に全職員で検討し、子どもたちの発達段階に合わせて図書を整備しています。県立図書館や太田市立図書館等地域の図書館の団体貸出を利用するなどしている学校もあります。

学校図書館では、限られたスペースを活用し、おすすめの本や教科書に出てくる本、調べ学習に使える本などのコーナーを設け、子どもたちが読みたい本を見つけやすいように工夫しています。全ての小中学校には悩みごと相談員が配置され、図書館業務と子どもたちのサポートに当たっています。

先生おすすめの本のコーナー

市立太田高校と太田中
共有の図書館

②　課題

各教科に関連した図書資料や「調べ学習」に必要な図書資料については、まだ十分に充実しているとはいえない状況です。県立図書館や地域の図書館からの団体貸出等を利用連携している学校は、小・中・特別支援学校４４校中１５校、全体の約３４％となっています。

③　今後の方向性

学校は、子どもたちの発達段階や各教科の学習内容を考慮し、各ジャンルのバランスのとれた図書の選定を行うとともに、子どもの多様な興味・関心に応える魅力的な蔵書の整備に努めます。また、公立図書館と連携し団体貸出等を積極的に活用するようにします。小・中学校に配置されている悩みごと相談員を活用しながら、子どもたちが足を運びやすく、使いやすい学校図書館となるような運営の工夫に努めます。

（２）　朝読書・読み聞かせの実施

①　現状

朝読書については、太田市内小中学校すべての学校で取り組んでいます。特に中学校では、ほぼ全ての学校で毎朝実施しています。

読み聞かせについては、すべての小学校と特別支援学校で行われています。各学級で担任が読み聞かせをしたり、ＰＴＡや地域のボランティア団体の協力による読み聞かせが行われたりしています。

また、年に１～２回読書週間や読書月間を設け、読書に親しむ機会を工夫している学校もあります。読書週間には、読書集会を開き、読み聞かせやおすすめの本の紹介をする等、子どもたちが本に興味をもてるようなさまざまな取組をしています。

読書集会
絵本『ぐりとぐら』

②　課題

市内小中学校の約７５％が、「子どもたちの読書離れ」や「読書量の減少」を課題として挙げています。特に、学年が進むにつれて、図書室を利用する子が限られてしまい、本を読む子と読まない子が二極化する傾向にあります。また、読む本のジャンルの偏り等、読書の質についても課題があるようです。

家庭と連携して読書推進への取組を行っている学校は、全体の２７％となっています。

平成２９年度　図書室の年間利用人数

	授業時間 １校あたりの平均	休み時間・放課後 １校あたりの平均
小学校	６４４６人	１７４２９人
中学校	１１１５人	３６７３人

③　今後の方向性

発達段階に応じた計画的な読書指導や読書時間の確保の工夫に努めます。

保護者会や図書便りを通して読書に関する情報を伝えるなど、学校からも働きかけることで、家庭への啓発を図ります。

（３）　児童生徒主体の活動

①　現状

各学校では、図書委員会を中心に児童生徒主体の読書推進へのさまざまな取組がされています。「おすすめの本の紹介」は、多くの学校で行われている取組です。先生方や図書委員がおすすめする本について、図書だよりに載せたり、ポスターやカード、ポップを作成したりして図書室等に掲示しています。

また、本をたくさん読んだ人を読書集会や昼の放送で紹介したり、「多読賞」として賞状やしおりを渡したりなど、読書への意欲を向上させるような取組も多くの学校で行われています。

読書集会では、図書委員が、新着本の紹介、読み聞かせ、本に関するクイズや多読賞の表彰など、読書への興味・関心を高めるような工夫をしています。

ブックフェスティバル、季節や行事を生かした読書イベントを開催するなど、特色のある取組をしている学校もあります。

図書委員による
大型絵本の読み聞かせ

②　課題

図書委員会を中心にさまざまな読書推進への取組が行われていますが、全校の児童生徒へ読書への興味関心を持たせることに関しては、課題があります。学年が進むにつれ、休み時間や放課後も係や委員会などさまざまな活動があり、図書室へ通う時間の確保が難しくなっているのが現状です。

③　今後の方向性

子どもたちの読書の量と質が充実するように、効果的で特色ある読書推進の取組を情報交換することで、それぞれの学校で、図書委員会を中心とした児童生徒主体の活動をさらに充実させます。

開館時間や貸し出し方法等を工夫し、児童生徒が利用しやすい学校図書館の運営に努めます。

担当課：【児童施設課】
【学校教育課】

Ⅳ　関係機関の連携・協力による子どもの読書活動の推進

（１）図書館と学校との連携

①　現状

公立図書館と学校（図書室含）における連携の機会が少ないことから、児童・生徒に対して質の高い読書活動に係る情報提供が希薄となっています。

【取り組み事例】

〇学校との連携による「職場体験」の受け入れ

職場体験学習を通して、働くことの意義や図書館の社会的役割について学んでもらい、自分の適性を見つける機会を提供しています。

〇団体貸出しの実施

希望する学校に対して公立図書館が所蔵している図書について、貸出しを実施しています。

②　課題

公立図書館と学校（図書室含）は互いに連携協力し合い、児童・生徒に対して、より質の高い読書活動をサポートする必要性が求められています。

③　今後の方向性

公立図書館と学校（図書室含）との連携を強化すると共に、積極的な情報発信に努めます。

【求められる連携】

・図書資料等の充実を図ります。

・児童、生徒を対象とした新規事業の企画立案・実施に努めます。

・読書活動モデル事業の企画立案・実施に努めます。

（２）図書館と他団体との連携

①　現状

公立図書館と読書ボランティアにおける連携の機会が少ないことから、児童・生徒を対象とした具体的な取り組みが行われていません。更に、人材育成についても同様であります。

②　課題

読書ボランティアの人材育成に努め、読書活動支援体制の構築が求められています。

③　今後の方向性

・読書ボランティアの人材育成に努めます。
・地域財産の積極的な活用を図り住民・団体等との連携強化に努めます。

担当課：【学習文化課】